

とべないホタル

ともだちがあぶない！ホタルたちは、つぎつぎと空に飛び上がった。
厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財



原作 小沢昭巳
脚本 生越嘉治
演出 山形文雄
美術 田中佑子
制作 山形重和

白いりゅう 黒いりゅう

「いつまでも、このままでいいの!？」おいらはあきらめない。少年は立ち向かう…。
厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財



翻訳 君島久子
脚本 さねとうあきら
演出 山形文雄
美術 田中佑子
制作 山形重和

間口14mの迫力のある三面スクリーン



シルエット・ファンタジー

とべないホタル

物語

夜空に、大勢のホタルが飛んでいました。けれど草の茂みに、いつまでたっても飛びあがってこないホタルがいました。羽がちぢれて、飛び上がれないのです。



ビンを持って、少年がホタルを探しにやってきました。あぶない！早く逃げるんだ。空から飛んできたホタルが飛べないホタルに叫びました…。

優しさといたわり、友情を爽やかに描く感動の物語。

上演の意図

人はもともとひとりでは生きられません。もっとも少ない人の集まりである家族や、地域にそれをひろげて考えてみても、相互の協力があって、はじめて社会がなりたっているように思います。

人はそれぞれに長所、短所をもっていて個性的です。これらの長所、短所を集団のなかでおぎないあうことが、長い時間をかけて学んできた人間の英知だったはずでした。どうした訳か、それがいま崩れかけています。

自分の存在が、他の人を助け、また、他の人から助けられるという理解があって、はじめて人は優しくなれます。

まわりの人と強調し、ともに生きる大切さを、友達をおもいやるホタルの勇気と優しさを、ホタルの輝きをとおして訴えます。

中国の少数民族白族の民話から

白いりゅう 黒いりゅう



物語

旅の途中で大工のヤンは、息子を黒いりゅうに吞まれてしまった。「黒いりゅうを退治しよう…」と、ヤンは村人に訴えたのだが、りゅうの仕返しを恐れ、協力を申し出る者はいなかった。

「なにもしないでこのまま諦めているの…」りゅうに両親を奪われた少年が叫んだ。雲南省に住む白族の、白竜廟にまつわる伝説。

上演の意図

中国の少数民族白族の民話からの劇化です。

中国でもタイの国境に近い山地でありながら、いつも洪水に悩まされていた地域の様です。

黒い竜は災害の象徴であり、現状を固持する村人の心性の象徴でもあります。古里へ帰る途中の大工の名人が、息子を黒いりゅうに吞まれてしまった。親方は白いりゅうを彫り、黒いりゅうを退治しようと村人に呼びかけた。

巨大な力を持つ黒い竜に対して、村人がどのように対応し、一つの力になってゆか。

知恵、勇気、団結、理想、挫折。村人の思いが複雑にからみ合って、それを生かすダイナミックな芝居づくりをしています。

〒152-0001 東京都目黒区中央町1-15-21 TEL 03-3710-1061 FAX 03-3710-1408

お問い合わせはフリーダイヤル（通話料無料）**0120-03-1061**をご利用下さい

E-mail info@minwaza.com ホームページ www.minwaza.com